

「論文作成」のための特別講座

練習問題 19

あなたにとって、幸福を感じるのはどんなことですか？

裏面の新聞記事を参考にして、自分の幸福と仕事の関係について作文してください。文字数は、400字以上600字以内とします。

被災地で学んだ感謝

クリスマス。にきわうレストランの裏口から段ボール箱を手渡す。早朝から数え切れないほどの店をトラックで回った。「どんなに疲れていてもやり切らないと。正社員だから」。神保宏行さん（29）が東京の冷感会社に就職して1カ月がたった。

「二人でも生きていける」。高校時代は教室でぼつと弁当をひげ、修学旅行も集団から離れて歩いた。卒業後に就職した地元のホテルは人

福のち
幸福かた

3.11後の選択 ③

ボランティアを経てニート卒業

付き合ひがきず、すぐに退職。23歳で上京後、フリーターを選んだ。仕事の責任も人との交わりも煩わしかった。最低限の会話でその場をしのぎ、なまじないままバイト先を変えた。この2年はバイトの面接も通らない。親の仕送り10万円を生活しアパートにこもりがちになった。

9月上旬、ボランティアで岩手県宮古を訪ねた。ニートから抜け出すために親が勧め、6月に入所した自立援助施設の仕事が誘ってくれた。

「就職で面接のネタになるかもな」。打算もあった。

初日は仮設住宅脇の集会所の管理人、お茶を準備しても誰も来ない。きれいな畳に何度も掃除機をかけた。軒先に雨よけのバルコニーを立てると、年若い男性が顔を寄せた。

「いやあ、恩子が流されてしまったよ。淡々と語る男性にかけると言葉は見つからない。ただ「そうですか」としか言えなかった。

スコップを握り、民家や側溝の泥をかき出した。宿舎に戻ると、疲れて寝転ぶ。朝の仕事中、がれきの町を端目に一本当に役立ったのか」と考えた。片付けたのは、広い被災地のごく一部だった。

宮古から戻ると、職員に感想を書くよう頼まれた。仲間とのじゃんげんに負け、泣き引き受けた。

毎晩、茶色いマス目の原稿用紙をにらむ。施設便りに載せる、わずか300字ほどの文章。何を書けばいいかわからぬ。何度も書いては、消した。

就職後、迎えた休日。神保宏行さんは家を空かしながら仲間との新年会に出かけていった。東京都江戸川区で先月、尾張屋裕彰



1週間、悩んだ。宿舎で地元の人たちが夕食に出してくれてたカレーのあんかけを思い出した。手にした泥かきのスコップも、誰かが用意してくれた。集会所にそこそこのべいを置いていく被災者もいた。手助けに行く側の私が、誰かの手助けを受けていた。人への感謝を知らないまま生きてきた自分に気づいた。

初めて「二人で生きているんじゃない」と分かった。送の白いワゴン車。隣でハンドルの握る店主は黙っていた。思い切った声をかけ、「『給料を払いたい』と思われやになれよ。店主は、自信のない自分を励まし、持った。話しかけてくれるのを待って、話しかけてくれた。

後日、人づてに聞いた。ハローワークで探してきたのは同じ配送の仕事。1月、東京都内の冷蔵会社の面接を受けた。ソファに座るジャンパー姿の支店長に「君は運がいい人間だと思うか」と聞かれた。

就職の面接で初めて受ける質問だった。歩みを振り返りながら答えた。「いろんな人に助けられて、こまめ来ました。だから自分はいいです」。

支店長は言った。「一ついてる」と思っている人、一緒に働いた方が楽しいよね。最後までボランティアの話題は出さないうまま、採用が決まった。

就職後、久々に神戸服店でスラックスを買った。仕事中に尻が破れてしまったからだ。この仕事では、よくあるみたいで。照れ笑いに、少し自信がのぞいた。

【竹内良和】

＝あわり

「論文作成」のための特別講座 練習問題19 解説

資料読み取り型の論文問題である。

新聞記事の中からメッセージを読み取って、そのメッセージ(問題提起)に対して、自分の意見を説明することが求められている」論文問題である。

ただし、「自分の幸福と仕事の関係」について書くことが求められている。

① 書き方としては、標準的な「資料読みとり型小論文」の構成(段落構成)を使えばよい。

すなわち、公式は、

第1段 資料文からの「引用」

第2段 「問題提起」+「判断」

第3段 「根拠」

第4段 「まとめ」(「判断」の反復+「提案」) である。

次に、論文執筆のための要点を解説しておこう。

② プロットを書く際に、「論点」を「自問自答」する。これがしつかりできれば、ポイントが上がる。

③ 「新聞記事」が訴えるメッセージは、次のように読み取ることができる。

(ア) 「一人でも生きていける」と思っていた人が、被災地での活動から、人に助けられて自分は生きていることに気づく。

(イ) 「一人で生きているんじゃない」。社会の名前も顔も知らない人達のつながりのなかで自分は支えられている。

(ウ) 仕事があることが幸福。

(エ) 仕事を通して社会に貢献できることが生き甲斐。

(オ) 「『給料を払いたい』と思われる人」として認められたことが、幸福(だれかの役に立っているという実感が幸福)。

④ キーワードは何か

幸福 支え合い 生きる 東日本大震災 津波 復興
仕事 社会参加(仕事を通して社会に参加する) 感謝

「答案」を書くテクニック

第1段の「引用」の場面で、論じる対象を明確に示えること。すなわち、論じる対象は、新聞記事に取り上げられている人が幸福をどのように感じ、今を生きようとしているのか。そのメッセージについて「自分はどう受け止めるのか」を書くことが大切である。

その際には、③の(ア)～(エ)のいずれか、あるいは複数のメッセージを、記事内容から直接引用しなければならない。

第2段で、「問題提起」として、自分はどんな仕事を目指していたのか。その仕事で、どのような自分の幸福をつかもうとしていたのかを説明する。そのうえで、新聞記事のメッセージを受けて、自分の生き方や将来に目指す仕事のことについて新たに気づいた思いなどを説明する。

次に、新聞記事を読んだ今、自分が目指したい仕事の説明をする。

その際には、自分や自分の家族が社会とどう関わって生きたいのかを説明すること。そして、自分にとって、生きていくことと仕事との関係はどのようなものなのかを説明すること。

この新聞記事は、自分の家族以外の人への感謝が、社会参加の契機になり、生き甲斐や幸福を感じる大きな力になっていることを訴えているとも読める。その意味で、ここでは、自分の家族への感謝を述べるだけでは説得力がないことを注意しておくべきである。自分の家族も社会の支えで成り立っているからである。

第3段では、目指す仕事に就くために獲得しなければならない知識や技術の説明をする。その際、今の自分の力量と、目指す仕事に求められる力量・知識・技術との間の距離を説明し、自分の課題を超えていく道のりを明らかにできれば高い評価が与えられるであろう。

※ 採点基準

個人の「人生感」を採点することはできない。したがって、何を生き甲斐と感じるかなどの内容そのものを採点対象にはしない。

しかし、「課題設定力」と「表現力」及び「論理力」は、採点対象とすることができる。この問題の採点基準としては、次のような事柄が考えることができる。(10点満点として考えると次のような配点になる)

- ① 新聞記事が伝えるメッセージ(社会参加と幸福感)を説明している。(2点)
 - ② 仕事と幸福のつながりについて、記事を読む前と読んだ後での自分の考え方の変化などについて具体的に書いている。(2点)
 - ③ 今後、自分が克服しなければならない課題を説明している。(2点)
- 以上の①～③を書いていることと、指定の文字数で書いていることが最低条件である。
- 次に、加算対象として、
- ④ 自分の目指す仕事について具体性がある。(2点)
 - ⑤ キーワードを効果的に使用して、説明している。(2点)
- これら以外に、論理矛盾は、減点対象とされるので要注意である。